

第1回飯田市社会福祉審議会 高齢者福祉分科会 議事録（概要）

■ 開催日時 令和6年11月12日（火） 14時58分～16時03分

■ 開催場所 飯田市勤労者福祉センター3階 第3研修室

■ 出席委員 16名

氏 名	出欠	氏 名	出欠
何原 真弓	○	塚平 俊久	○
大田中 志保	○	遠山 清美	○
小林 弘	○	平島 まゆみ	○
酒井 満由美	○	前島 道広	○
幸森 信良	○	松下 規代志	×
篠田 守	○	松村 和代	×
高島 孝子	○	松村 秀樹	×
多田 雅幸	○	矢澤 秀宣	○
田中 光子	○	山田 達朗	○
棚田 淳史	○		

■ 出席事務局 8名

氏 名	部・課・係名	備考
林 みどり	福祉部長	
乾 徳彦	長寿支援課長	
下島 剛	長寿支援課長補佐兼介護保険係長	
小椋 直美	長寿支援課 基幹包括支援センター係長	
山岸 章広	長寿支援課 介護認定支援係長	
板倉 和代	長寿支援課 長寿支援係長	
原田 麻理	長寿支援課 介護保険係	

1 開会

2 会長挨拶

本日は、令和6年度第1回飯田市社会福祉審議会高齢者分科会にご出席いただきましてありがとうございます。

昨日は11月11日で、日本介護福祉士会が制定した「いい日、いい日、毎日、あったか介護をありがとう」ということで、介護の日だったそうです。介護の日ということで、昨日NHKで、「介護保険が始まったとき、介護サービスを受けている方は全国で200万人以上だったが、現在は700万人以上が介護サービスを受けている。これからはベビーブームに生まれた団塊の世代の皆さんが75歳以上に達し、ますます介護需要は高まっていく。」というニュースがありました。

しかし現在は、介護人材は減っている状況です。私たちの事業所は開業から20年以上経ちますが、開業時にヘルパーとして働いていた方に、現在も来ていただいています。若い方がなかなか就業してくれない状況です。実際に、全国で多くの事業所が廃業しています。それでもサービス費の上昇はわずかです。このような状況下で、今後、事業を継続できるのかという大変な時期に差し掛かっていると感じています。しかし、「負けていられない、なんとかしなきゃいけない」という気持ちの中で皆さんやっておられると思います。今日は、8期の給付状況や令和6年度の給付状況を鑑みて、将来のことを皆さんで考えていただければと思います。

3 部長挨拶

皆さん、改めましてこんにちは。本日は、公私ともに大変お忙しい中、本年度第1回の社会福祉審議会高齢者福祉分科会にご出席いただきありがとうございます。

分科会の委員の皆様におかれましては、各分野にてご尽力いただいておりますこと、大変感謝申し上げます。また、昨年度は、高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定につきまして、熱心にご議論いただき無事計画ができました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が、感染法上の5類に移行し、一年以上経過しました。全国的な介護サービスの伸び率は、コロナ禍の前の状況に戻ってきたという報告がございます。しかしながら、高齢者に対する感染リスクというのは変わらないことから、高齢者施設には、引き続き感染状況の報告を求めている、注意喚起を行っている状況です。

今年度は、第9期計画期間の初年度ということになるわけですが、既に半年が経過しました。第9期計画には、3つの目標と具体的に取り組むべき9つの施策を掲げております。その中で、「多様な人材の確保」、「介護予防の推進」を重点施策と位置づけて取組を進めているところです。

本日は、第8期の計画に係る最終数値、今年度上半期における給付等の状況、主な取組の状況等についてご報告をさせていただきます。

この分科会は、高齢者保健福祉・介護保険事業に関する事項をご審議いただく目的で開催をしておりますので、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴したいと存じます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

4 報告・協議事項

(1) 第8期介護保険事業計画期間における給付費等実績報告について（資料No.1）

質疑応答なし

(2) 令和6年度給付費等中間報告について（資料No.2）

委員：令和6年度の4月から9月介護予防訪問リハビリが前年対比でかなり減少しています。何か影響があったのか、分析をしていただきたいと思います。例えば、介護予防事業の効果があったのか、介護予防訪問リハでないほうに事業費がかかっているのか、今回の報酬改定での介護予防訪問リハビリの減算が大きいためのものか。まだ上期のみのため明確でないと思いますので、各包括にも確認し一年を通じて分析をしていただけるとありがたいと思っております。

事務局：大きな変動につきましては、継続して分析をしていきたいと思っております。介護予防の数字は、介護サービスの数字に比べ規模が小さいため、少人数の増減でパーセントとしては大きく出てしまう場合があります。実数がどのくらいの量なのかも継続して把握をしていきたいと思っております。

委員：住宅改修費の介護・予防ともに大きく減っている状況ですが、何か要因が考えられますか。

事務局：要因については思い当たる点はありませんが、まだ上半期ですので、一年を通して、また来年も含めまして継続して把握をしていきたいと思っております。

委員：件数自体はそんなに減ってないとは思いますが、1件あたりの金額が確かに減っている。件数はあっても金額が減っているということもあるので、その点は注目していただきたいと思います。

委員：通所介護・短期入所生活介護も減少しています。私たちの事業所でも実際減っています。全体を見ても減少しているというのは、何か要因があるのか分析をお願いしたいと思います。

事務局：令和6年3月末に、定員30名から40名程度の2事業所が、通所介護から地域密着型通所介護に変更となったために、通所介護が減少し地域密着型通所介護が増加しました。利用者さんの増減はほとんどありませんが、そこで数字の動きがあったことは把握しております。

短期入所生活介護につきましては、引き続き動向に注目してきたいと思います。

(3) 令和6年度介護人材確保対策について（資料No.3）

委員：「介護のしごと相談会」ですが、過日、飯伊圏域の事業所連絡会で役員の皆さんで話題になったのですが、開催日程について、「12月の押し迫った時期に開いて本当に人が集まるのか」といった意見も出ておりました。この日程はどういう意図があるのでしょうか。

事務局：飯田短大等と相談し決定いたしました。また他の町村の意見もあり、この日に実施することといたしました。

委員：6月に18施設が参加して、来られた方が17名という状況でした。大変厳しい状況ですが、何か施策はありますか。

事務局：今年度の第1回相談会の際には、市長・連合長が定期会見の前に相談会の話をしまして、YouTubeで公開しました。また、ネット上の広告は以前より増やしています。今後も新しい広

告の仕組みを考えてまいります。

事務局：前年度 6 月・12 月に開催した際は、それぞれ約 30 名参加者、ブースの数が 25 ほどありました。就職につながった方が、それぞれ 3 名程度ずつということでしたので、今年度も同程度見込んでいました。今年の相談会の案内も前年度と同様にいたしました。周知不足もあるかと思いますが、様々な方策で周知をしたいと思っております。ただ、現在は様々な分野で人材不足ですので、周知をすれば大勢が来てくれるという状況ではないのかもしれないかもしれません。そういった社会背景がありますので、できることはやり尽くすということだと思っています。1 人でも 2 人でも介護の仕事に結びつく方がいらっしゃるのであれば、やる意味があると思っています。

広域連合に、4 月からノウハウを持った市の職員が異動しておりますので、今後様々な周知をしていく予定です。日程につきましても、参加できない方のためにオンライン開催も考えています。今後も工夫して続けたいと思っています。

委員：みんなでいろいろ工夫しながら、多くの人が集まるようにしていきたいと思っています。ありがとうございました。

委員：雇用の創出について、例えば事業所が廃業した後、働いていた方が介護の分野に留まるのか、あるいは全く他職種のほうへ動くのかという追跡ができれば、お願いしたいと思っています。

人材不足や物価高等で廃業せざるを得ない事業所もあります。また、訪問介護・通所介護は、本年度、特に倒産件数が全国的に多いと言われています。そういった廃業に伴って離職した潜在的な介護人材の方を雇用に結び付けていけるような形を、飯田市、広域連合、各市町村で取り組んでいく必要があると思います。

事務局：事業所が閉鎖や休止になると、市に届けが出てまいりますので、可能な範囲で「従業員の方がどうされたか」と聞いてみたいと思います。

潜在的な介護人材につきましては、フルタイムは不可能けれどもパートなら働ける、しかし受け入れてくれる事業所があるかどうかわからない、ということもあるかもしれません。受け皿はあるが情報がないから就業できないという方のマッチングができる仕組みがあるといいと思います。相談会でマッチングの機会をつくってあげると、雇用につながるかもしれないと思います。

（４）令和 6 年度飯田市介護用品処理負担軽減事業について（資料 No. 4）

委員：介護用品の尿取りパッドやおむつのごみ袋の支給、とてもいいことだと思います。しかし使用済みのおむつやパッドをごみ袋に入れるとすごく重くなります。先ほどの包括でも話題にありましたが、ごみ出しが課題になると思います。家族構成にもよりますが、今後の課題として検討していただきたいと思います。助け合いの仕組みづくりを考えているということも聞いておりますので、支給だけでなくごみ出しまで一緒に考えていただきたいと思います。

事務局：ごみ出しの方法につきましては、検討していきたいと思っています。

委員：この事業に 2 号の方が対象にならない理由を教えてください。

事務局：この補助要綱をつくった際、他の要介護 3 から 5 に対する補助金に合わせて作成したという経過があります。今お聞きした意見も参考にし、要件拡大できるか判断していきたいと思っています。

委員：介護者への通知について、独居で、ご家族は県外という方は、ケアマネに連絡する等の方法は取っていますか。

事務局：今年度は事業者連絡会でお話をさせていただいておりまして、今後も毎年度1回は話をしたいと思います。

委員：多くの皆さんに周知が行くようによろしく願いいたします。

委員：ゴミ出しの際に重いという問題ですけれども、自分が在宅介護をしていたとき、大きい袋でなく小さい袋を2枚出せば解決しましたが、いかがですか。

事務局：貴重なご意見として、検討をしていきたいと思います。

5 連絡事項

質疑応答なし

6 閉会